

たとえリセットされても

「人は鏡」という生き方

4年 R・Oさん

私は「愛ちゃんに向かっていやなことを言ったり、ひどいことをしたりすれば、それは全部自分にはねかえってくる。まるで鏡みたい。」という一文がとてもしに残りました。なぜならば母が毎日の様に私に言う「人は鏡だよ。」という言葉と一緒にたつたからです。嫌な事も良い事も全て返ってくるから、人に優しく、自分を大事にしなさいと言われます。しかし、この本では、対する相手が人ではなくロボットでした。ロボットに愛や感情があるか、という点が本の中でも話されていました。私はロボットには感情があるかといわれればわからないと思いました。感情のあるロボットは、相手の気持ちを読みとり、その上で何をすべきか考え実行できると思います。しかしそれが人間を分析して植えつけられた感情だと言われたらとてもむずかしいと思いました。いつかロボットが人間の仕事を全て代わりにできる未来が来た時に、カウンセラーなどの仕事はいろんな情報をもっていて、より良いアドバイスのできるロボットがいるかもしれないが、相手の感情と一緒に共感して一緒に考えることができるのはやはり人間だけなのかなとも思いました。しかし、ロボットが家族になったり、クラスメイトになる未来が必ずくる、そして必要だと思っています。

私の母のおばが田舎に一人暮らしをしていて、遊びにきた時に、家に帰ったらまただれとも話せないよ、さみしいなと言っているのを聞いて、私もとてもさみしい気持ちになります。愛ちゃんのような自分のいてほしいロボットが大好きな人となりと一緒にくらしてくれたら、とても安心できると思いました。なので、本の様にもしクラスメイトにロボットが来たとしても私は最初は少し接し方に戸惑ってしまうかもしれないけれど、気持ち悪いなどと思わずに、仲良くしたいと思いました。しかし「愛」がロボットと分かれ、「柚果」と「大樹」のように、「愛」をつれて親にだまっていって一緒に逃げられるかと考えると、そこまでの勇気があるかは分かれず、登場人物と私はまた違う感情を持った人だと思いました。けれども私の妹が本当はロボットで、ちがう所へいってしまふとしたら、逃がす為に妹についていくかもしれないと思いましたが。ロボットだから、人間だから、という事ではなく、私にとつてかけがえのない大切な人だから、守りたいと思いました。感情のあるのに関わらず、大切だと思える心があつて、守りたいと思える心が、動く力になるのだと改めて気付かされました。人にはそれぞれ大切な人や、家族がいて守りたいと思える相手がいると思います。しかし、未来の世界で、ロボットの存在があたり前になったとき、その身近な相手がロボットの場合、「また買えばいいや」「直せばいいや」と思ってしまう様なことがあるかもしれないと思って少し恐くなりました。だから、私は「人は鏡」相手にしたことは自分に返ってくるの気持ち忘れずに、周りの人に思いやりを持って接し、もちろん自分自身も大事にして、周りの人にも私の事も守りたいと思ってもらえる人になりたいと思いました。